特集

取手で農業をすること。

取手市も市街地から出ると田畑が広がり、さまざまな農産物が生産されています。
農業に携わる人は年々減少し、高齢化も進んでいますが、その中で挑む若い人たちもいます。
取手でチャレンジする農業人に、現状や展望を聞きました。

問 農政課☎内線 2111

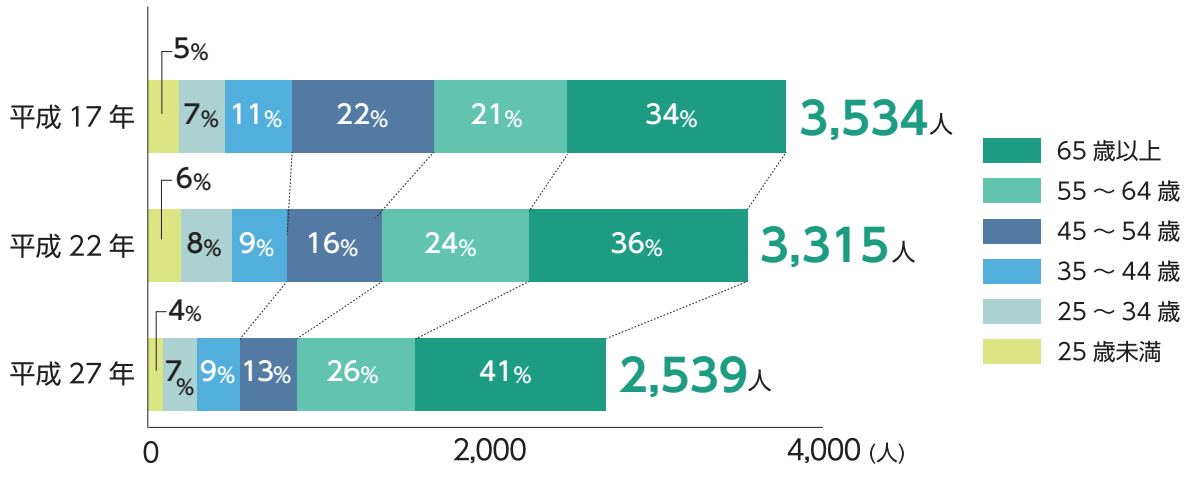
取手の農業の現状

▶ 減り続ける従事者、増える高齢者の割合

市内で農業に従事する人は減少傾向にあり、平成 17 年から 27 年までの 10 年で 1,000 人近く減少しました。農業従事者数を年齢別に見ると、平成 17 年の時点から 65 歳以上の従事者が常に最も多くなっています。また、10 年の間に 45 ～ 54 歳の方が大幅に減少していることが分かります。

さらに、平成 27 年の調査では農業従事者における 65 歳以上の割合は 41% に対し、25 歳未満は 4%。若手の農業への参入が少ないまま、高年齢層が増加していることが分かります。

市内の農業従事者数と年齢別の構成比



※データは県が公開している各年の農林業センサスから抜粋・編集。平成 17 年は合併前のため、旧取手市・藤代町の合計値を使用。割合は端数処理のため合計が 100% にならない場合があります。

01 チャレンジする農家 ―スマート農業で効率化 下山和樹さんに聞く

父や祖父の影響で、幼いころから農業を身近に感じていた下山さん（上萱場（かみかやば））。祖父の他界をきっかけに、工業系の大学を卒業後、県立農業大学校へ入学し農業の基礎を学びました。

「まだまだ元気な方も多いですが、高齢などの理由で離農者が増え、その農地を借り受けて米作りをしています。現在は父と自分でそれぞれ 15 ヘクタールの農地で作っています」

農地管理や作業を「見える化」する

―米作りでこだわりや考えていることは

「常に考えているのは作業効率です。農機具メーカーが提供している農業圃場（ほじょう）管理システムを導入しています」

―それはどのようなシステムですか

「普段の作業は父と 2 人で行っていますが、管理する水田が多いので、どこでどんな作業をしたかを把握するのが大変です。このシステムは、水田一枚一枚の状態や作業の進捗状況を『見える化』できます。農繁期に誰かに手伝ってもらうとき、いつ、どの水田に肥料や除草剤をまくなどの指示を登録しておけば、作業する人はその指示をスマートフォンで確認して、効率よく作業することができます」

水はけの悪い土でサツマイモを作る

―米作り以外で栽培はしていますか

「サツマイモです。スイーツや干し芋などで需要が多く、県も栽培を強化していて、今後さらに伸びていく作物だと思います。サツマイモは水はけの良い土で育つのですが、ここは小貝川と牛久沼に挟まれ、水はけが良くないんです。今は、元々水田だった場所の土で栽培できないか、県と実験をしているところです」

面積を増やすために　個人から組織へ

―今後の展望や目標はありますか

「組織化です。耕作面積を増やしてきましたが、今は父と自分がそれぞれ農業をしているので、やがて頭打ちになります。人を雇い、組織で農業ができれば、さらに面積を増やすことができるので。一つの目標です」